

《目次》

【診療科・部門紹介】

- 》保存科
- 》放射線部
- 》遺伝カウンセリング室

- 医科外来ご案内図
- 「鹿児島大学さくらっ子保育園」が開園
- 薬剤部からワンポイントアドバイス
- 錦江湾魚ごよみ
- 鹿児島大学病院が病院機能評価(Ver.5.0)の認定を取得

鶴丸城跡のハス(鹿児島市)

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

《患者さんの権利》

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

《患者さんの責務》

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

保存科

白い歯は美しい

保存科では、虫歯の治療や痛んだ神経の治療をおこなっています。虫歯が進んだ時の痛みは耐えられないものがありますが、痛みを取り除き元の歯の形まで戻すのが保存科の普段の治療内容になります。

その治療は、小さい虫歯であれば白いプラスチックで、硬いものを咬む奥歯に大きな虫歯があれば、銀色の金属で治療するのが一般的な方法です(写真上:治療前)。



また保存科では「白い歯外来」という専門外来を開設しており、前は前歯を白くするための「漂白」や「爪のマニキュアみたいなコーティング」についてご案内させていただきました。しかし、人が笑う時や会話をすると、下の奥歯も見えてしまいます。奥歯の治療はプラスチックで可能な場合もありますが、割れやすいことから保険治療では金属が多用されます。歯はもともと白い色なので、金属よりも白い材料で治療した方が清潔感や美しさを感じ、その人の印象まで違って見えてきます。そのため少々値段は高くなりますが、硬さもあって変色も少ない白い材質の、ハイブリッドセラミックインレーやオールセラミックインレーによる治療を希望される患者さんが最近増えてきています(写真下:治療後、右側も白い材料に置き換える予定)。



あなたも笑った時や会話をしたときに、相手に「清潔感があって美しい」という印象を与えたいと思いませんか。白い歯に換えると自分自身も今までと違う気分になれると思います。白い歯に興味を持たれましたら保存科(TEL 099-275-6590)まで遠慮なくご相談ください。

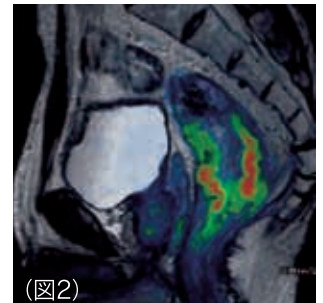
新規導入3TMRI装置の紹介

放射線部

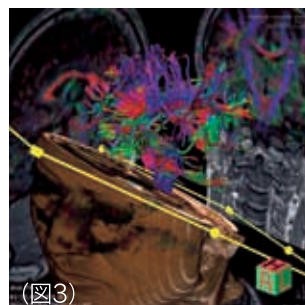
平成19年4月より、3T(テスラ)MRI装置(SIEMENS社製MAGNETOM Trio a Tim System)(図1)が導入され稼働しています。3TMRI装置の特徴として、信号(SNR)の向上、組織間の信号差(磁化率効果)の増加などがあり、このことは、非常に高い分解能で高速画像を3Dで提供できます。今まで難しかった微小出血を描出できるSusceptibility Weighted Imaging(SWI)の画質向上や、がん・梗塞などのスクリーニングとしての存在診断や、良・悪性の質的診断が初期の段階で可能な高b値拡散強調画像との融合画像(図2)、手術支援として神経線維路を描出する拡散テンソルtractography(図3)、及び治療効果や鑑別診断に有用な情報を評価できるMR spectroscopy(MRS)(図4)の分解能の向上など、これまでにない情報の提供が可能となり、診断及び治療への貢献が期待できます。



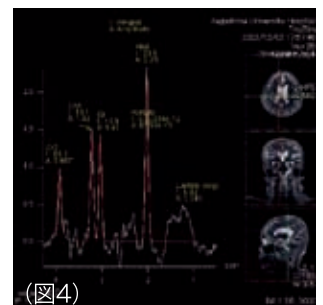
(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

(図1) 3TMRI装置

(図2) 骨盤部の高b値拡散強調画像との融合画像
色のついた部分(赤黄色)が大腸がんです、一目でその分布がわかります。

(図3) 頭部の拡散テンソルtractography
神経線維の走行がわかります。

(図4) 頭部のMR spectroscopy(MRS)
臨床診断で機能・代謝情報を得ることができます。

「鹿児島大学さくらっ子保育園」が開園

鹿児島大学では、職員が安心して働くことができるよう、かねてより念願でありました事業所内保育所を桜ヶ丘キャンパス内に新築し、平成20年6月1日から運営することとなりました。

開園に先立ちまして、5月26日(月)に開園式を行いました。開園式では、「鹿児島大学さくらっ子保育園」の名称プレート除幕式や、園名の命名者への記念品授与、テープカットなどが行われ、開園を祝いました。

現在、様々な分野への女性の進出は目覚ましいものがあり、この鹿児島大学桜ヶ丘キャンパスにおいても、医師、歯科医師、看護師、薬剤師など、多くの女性が働いております。また、昨今の医師不足、看護師不足を代表とする医療従事者のマンパワー不足は大きな問題であります。このような中で、多くの職種における女性職員確保は重要であり、こうした社会のニーズ、関心の高まりを背景にさくらっ子保育園が設置されました。

保育所の設置場所についてはキャンパス内からいくつかの候補を挙げましたが、最終的にこの場所を選定いたしました。ここは周囲を樹木に囲まれ、幹線道路からのアプローチも優れていると考えております。そのような中にセキュリティシステムを整備して「安心感・温かみ・元気」を与える保育園にしたいと考えております。



保育園入口から全景(モニター付インターホン及び電気錠にてセキュリティを確保)



名称プレート除幕式



テープカット



保育ルーム(0歳児と1~5歳児用)



テラス(雨天時にも利用できる半屋内スペース)

遺伝についての 相談をお受けする

遺伝カウンセリング室

遺伝医療の急速な進歩により、遺伝に関して一般の方は理解が難しくなっているのが現状です。遺伝カウンセリング室では、遺伝についてお悩みの患者さんや一般の方の、相談をお受けしていますので、遠慮なくご予約ください。

1時間程度の十分な時間をとり、分かりやすい言葉でお話するように努力しています。臨床遺伝専門医を含め医師2名と臨床心理士1名がカウンセリングに参加いたします。一般診療とは異なりますので、雑談等も交え、リラックスした話しやすい雰囲気づくりに努力しています。遺伝病に関する検査等が必要と判断される場合は、各診療科外来を紹介します。

月に2回スタッフカンファレンスを開いています。スタッフが集まり相談についての検討を行います。また勉強会も随時行っています。遺伝についてのご相談の中で、子どもを授かると、50%ほどの確率で重症の病気になると、思われていた方が、お話を伺うとほぼ0%であることがわかり、嬉しそうに帰られたケースがありました。ちょっとした勘違いなのかもしれませんが、なかなか詳しい医師には巡り合えないのが、現実のようです。



！ 薬剤部から ワンポイント・アドバイス

目薬の使い方

1) 目薬をさす方法

- 目薬を使う前は、手をきれいに洗いましょう。
- 上を向き、下まぶたを軽く引き、引いた手の上に片方の手をのせて目薬をさします。
- 目薬をさした後は、軽く目を閉じて、さらに目頭をそっと押さえましょう。
- 上手に目薬をさすことができないときは、利き手で容器を持ち、反対側の手でげんこつを作って、頬にあて、そのげんこつを台にして目薬をさす方法があります。お試しください。
- あふれた液は清潔なティッシュでふきまじょう。
- 医師の指示した回数や時間を守りまじょう。
- 目薬の先がまつげやまぶたなどにふれないようにまじょう。

2) 1回使用量

- 1回1滴で十分です。目薬の1滴は約0.05mLで、このうち目の中に入るのは約0.02mLです。したがって、約半分だけが効果を発揮します。

1滴きっちり目に入れば半分はあふれてしまいますので、1回にさす量は1滴で十分ということになります。あふれた目薬で肌がかぶれたりすることもありますので、何滴もさす必要はありません。

3) 目薬をさす間隔

- 2種類以上の目薬を続けて使う場合は、最初に目薬をさしてから次の目薬をさすまでの時間を5分以上あけまじょう。何種類かの目薬をもらったときに、間を空けずに次々に目薬をさしている方をよく見かけます。5分間隔で目薬をさすとほとんど影響はないのですが、30秒間隔で目薬をさすと効果が半減し、さらに、2分間隔でも約30%効果が低下します。また、間を空けずに次々と目薬をさすと、配合変化を起こして沈殿物やゼリー状のものができたりまじょうので、2種類以上の目薬をさす場合は、必ず5分以上間隔をあけてまじょう。

巣立ちを見送る

夏のある日、夜明け前のまだ薄暗い海に入りました。昼間と違い、魚影は少なく、ひっそりとしています。波のうねりに、イソギンチャクの触手が静かに揺れています。

私は、一つのコブハマサンゴに近づきます。そしてサンゴの上の小さな穴に眼を凝らします。いました。マダラギンポです。穴から顔を出し、胸鰭を忙しそうに盛んに動かしています。実は、このマダラギンポ、穴の中の卵を守っている父親なのです。胸鰭を動かすのは、巣穴の中の卵に新鮮な海水をおくっているのです。

太陽が顔を出し、海中も少しずつ明るくなっていく頃、待ちに待った行動が始まります。巣穴から顔を出していたオスが、巣穴の中に姿を消します。1分ほど経ったころでしょうか、再び顔を出しました。何やら周囲を気にしています。次の瞬間。巣から身を乗り出した雄の口から、いくつかの金色の粒が海中に放たれました。金色の粒は、よく見ると、透明の尾を震わせて泳いでいます。粒はマダラギンポの仔魚なのです。

マダラギンポの父親は、卵が孵化すると、仔魚を口に含み、仔魚を食べる捕食者がいないタイミングを見計らって、巣の外に放つのです。

私は、巣立っていく仔魚を、彼らの父親とともに見送りながら、彼らが無事育ち、再びこの海底に戻ってくることを祈りました。



2匹の仔魚を口から吐き出し、巣立たせるマダラギンポの雄。

TOPICS

鹿児島大学病院が病院機能評価 (Ver.5.0) の認定を取得

鹿児島大学病院は、(財)日本医療機能評価機構の病院機能評価の認定(Ver.3.1)更新のため、病院機能評価を受審しました。病院機能評価は、住民への様々な医療提供の質を第三者機関から多面的に評価を受けるものであり、その評価項目は、7領域について約600項目設定されています。本院は、(財)日本医療機能評価機構の病院機能評価の認定(Ver.5.0)を取得するため、平成17年10月にプロジェクトチームを設置し、現状を把握の上、自己評価・分析を行い改善策を実施して、医療の質の向上、患者さんの安全確保、患者さんへのサービスの向上や病院アメニティーの向上等を推進し、病院一丸となって準備に取り組んできました。

その結果、九州の国立大学病院として初めて(財)日本医療機能評価機構の(Ver.5.0)の認定を取得することができました。本院の理念は、「常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供すること」であります。今後もこの理念に沿って日々努力を重ね、21世紀に輝くヒューマントータルケア病院の構築を目指していきます。



禁煙のお知らせ

鹿児島大学病院は、平成20年4月1日から病院施設及び敷地内禁煙を実施しています。敷地内(駐車場等)での喫煙・ポイ捨て等は行わないよう皆様のご協力とご理解をお願いいたします。

広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気的一般知識など知っておきたいことがありましたら、お知らせください。また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈10号〉

2008(平成20)年7月発行
発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】
<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>